

クワシロカイガラムシ（第1世代幼虫）の 防除対策について

令和7年5月1日
埼玉県茶業研究所

本年はクワシロカイガラムシ（以下「クワシロ」）のふ化幼虫の発生ピークは平年並（5月14日）の見込みです。発生量は観察地点では比較的少ないと考えられますが、茶畝の一部に雌成虫が多く発生している茶園も見受けられます。本年のふ化幼虫の発生ピークは一番茶摘採期と重なるため、発生が少ない場合は、次世代の防除時期（7月）に対策する方法もあります。下記の情報を参考に、対策を検討してください。

なお、現在、クワシロの発生が多い場合や、今後の対策について判断が難しい場合などは遠慮なくご相談ください。

1 有効積算温度による推定

各地点の茶株内温度とアメダス（青梅）のデータ（平年値、温度補正なし、予察日4月24日以降を利用）から推定したクワシロの防除時期は以下のとおりです。

調査地点	ふ化幼虫の推定ピーク	防除適期
入間市（野田） 所沢市（東狭山ヶ丘）	5月11日	5月12日～15日
狭山市（笹井）	5月13日	5月14日～17日
入間市（上藤沢） 入間市（茶研） 入間市（木蓮寺）	5月15日	5月16日～19日
青梅アメダスデータ	5月14日	5月15日～18日
青梅アメダスデータ 過去10年平均 (2015～2024)	5月15日	5月16日～19日

2 防除時期のポイント

薬剤による防除適期はふ化幼虫の推定ピークの翌日から4日後程度が目安で、この時期を過ぎるとしだいに防除効果が低下します。近年、防除時期が一番茶の摘採や製茶時期と重なることが多くなりました。防除時期はあくまでも目安です。発生被害（枝幹に雌成虫が多く寄生しているなど）が多い場合は、適期から遅れても防除対策を行いましょう。その際は、周辺茶園へのドリフトがないよう配慮しましょう。

一番茶摘採時期と重なり防除が実施できない場合や周辺ほ場がまだ摘採されておらず薬剤防除が困難な場合は、摘採後に米ぬか（約40kg/10a）を茶株内に処理するか、次世代（7月）の幼虫発生時期の対策を考えましょう。

3 防除対策のポイント

（1）3月にプルートMCを散布したほ場 通常、防除対策の必要はありません。

（2）プルートMCを散布していないほ場

- ・発生がとても多い茶園では、摘採後に防除するようにしましょう。
- ・ふ化幼虫の防除適期に防除する場合は、アプロードエースフロアブルやコルト顆粒水和剤を農薬使用基準に従って散布しましょう。
- ・発生ピークから日数を経た時期に防除する場合は、カルホス乳剤やマシン油乳剤（ラビサンスプレーなど）を農薬使用基準に従って散布しましょう。
- ・農薬を散布する場合は、使用時期（収穫前日数）に注意して散布しましょう。
- ・散布に当たっては茶株内の枝幹に十分に薬液がかかるよう丁寧に実施してください。

（3）更新処理

深刈りや台切り更新を予定している場合、上記防除適期から1週間以上経過したのちに実施するようにして、寄生した枝葉の飛散や歩行幼虫が機械に付着により、他のほ場にクワシロを広げないように注意しましょう。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう

連絡先：埼玉県茶業研究所

農業革新支援担当 小俣

TEL : 04-2936-1351

FAX : 04-2936-2891

E-mail : omata.ryosuke@pref.saitama.lg.jp